

英米文化学会会報

第 76 号

平成 20 年 7 月 15 日



マドリッド郊外で 500 年におよぶ英知の歴史を誇る大学街アルカラ・デ・エナーレス。シェークスピアと同時代を生きた、スペインの文豪セルバンテスの生家が、ここにある。昼間の炎暑を残す街路の石畳に、文芸批評史上に典型として生き続ける二人の銅像の影が落ちる。夢想家で時代錯誤の騎士ドン・キホーテと、現実派の従者サンチョ・パンサである。人通りの絶えた深夜の街角、原作者の生家前で二人は何を話しているのだろうか。(撮影：佐野、2008 年 7 月)

目次

- ◆ 大会担当より 英米文化学会第 26 回大会のお知らせ
- ◆ 事務局より 第 26 回大会の宿泊申し込み
- ◆ 財務担当より 会計報告・予算
- ◆ 学術担当より 紀要『英米文化』第 39 号論文募集
- ◆ 分科会担当より 分科会開催報告
- ◆ 事務局より 会員消息
- ◆ 編集責任者より お詫びと訂正

◆ 英米文化学会 第26回大会のお知らせ

(大会担当理事：曾村充利)

第26回大会は以下の要領で開催されます。

日時：平成20年9月13日(土)、14(日)

場所：文京学院大学 軽井沢セミナーハウス

〒389-0102 長野県北佐久郡軽井沢町大字軽井沢 1019-247

<4ページ(抄録のあと)に地図と交通手段情報、宿泊申込み詳細を掲載しています>

13日(受付開始 14:30)

開会の辞 (15:00) 英米文化学会会長 小野昌 (城西大学)

講演会 (15:10) 高取 清 (文京学院大学名誉教授)

「Hemingwayの文体分析——“Less is More”の構図」

懇親会 (17:30) 会場：セミナーハウス内特別会場

14日(受付開始 9:30)

研究発表 (10:00~14:30)

1. カナダの先住民族の生活を脅かすリゾート開発

発表 坂部俊行 (北海道工業大学)

司会 君塚淳一 (茨城大学)

2. 存在構文と前置詞の習得 —— 認知言語学に基づく英語教授法の実践とその効果

発表 森千佳子 (東京純心女子大学) 金子智香 (茨城大学)

司会 佐藤健 (静岡大学)

3. フェミニスト・シンキングと英語教育

発表 吉原令子 (日本大学)

司会 倉崎祥子 (松蔭大学)

4. Dreaming of the Feminine in Man:

A Reading of Steinbeck's *Of Mice and Men*

発表 Steve Redford (静岡大学)

司会 河内裕二 (明星大学)

5. 教育的視点から見たグループ「アラバマ」の歌詞

発表 佐野潤一郎 (創価大学)

司会 曾村充利 (法政大学)

大会研究発表抄録

1. カナダの先住民族の生活を脅かすリゾート開発

坂部俊行（北海道工業大学）

カナダ、ブリティッシュコロンビア州のサンピークス・リゾートでは、スキー場を中核に、年間通して楽しめる長期滞在型リゾート地として開発が進んでいる。バンクーバーから北東に車で約6時間のところに位置するサンピークスは、セクウェップムウという先住民族の伝統的領地である。彼らはこの地域で、伝統的に漁業、狩猟、採集の生活を送っている。領土内を流れる川には鮭や鱒が、山岳地域にはムースや鹿やウサギ、さらには木イチゴなどの豊富な果物などが自生している。しかし、山々を切り崩しての大規模リゾート開発によって、採取資源が激減し、彼らの伝統的な生活が脅かされ、彼らは聖地を追われている。ここに住む先住民族とその生活、そして訪問した時の状況を紹介しながら、今なお拡張事業が行われ、開発が進んでいるサンピークス・リゾートの現状を報告する。

2. 存在構文と前置詞の習得- 認知言語学に基づく英語教授法の実践とその効果-

森千佳子（東京純心女子大学） 金子智香（茨城大学）

認知言語学では語彙の形態が同じであれば、意味に密接な関連があると考えられる。存在構文に用いられる **there** は、場所を指し示す副詞 **there** からの発展であり、文の主語として扱われる。しかし、この構文の場合、動詞の単・複数はその後ろに来る名詞に合わせなくてはならないために、学習者には分かりにくい項目の一つとなっている。また、前置詞 **over** と動詞句で用いられる **over** との関連性はメタファーによる意味の拡張として考えられる。従来、前置詞と副詞など異なる品詞に分類される語も、中心となるコアの意味からの派生であるとする説明がつく。今回の発表では、従来の品詞分類の枠を超えたコアの意味による分類の効果を重点を置いて発表を行う。また、平成19年秋に行った前回の模擬授業のフィードバックやテスト結果を吟味し、コントロールグループも加え、平成20年春の模擬授業の結果を報告する。

3. フェミニスト・シンキングと英語教育

吉原令子（日本大学）

日本の英語教育において、スキルベースの語学教育を徹底すべきか、コンテンツベースの語学教育を目指すべきかという問題は永遠のテーマかもしれない。発表者は、昨今の英語教育における TOEIC ブームやリスニングやスピーキングを中心にした安易なコミュニケーション中心の英語教育に疑問を感じている研究者の一人であり、既存の概念を批判的にみる思考力（クリティカル・シンキング）に重点をおいた英語教育のあり方が模索されるべきだと考える。そこで、本発表では、クリティカル・シンキングの流れをくむフェミニスト・シンキングについて考えてみたい。ジェンダー問題を英語の授業に導入することによって学生のジェンダー意識に変化が起こるのかどうかについて、Pre & Post のジェンダー意識調査やアンケート調査を通して考察する。また、授業で取り上げたジェンダー問題について英語でエッセイを書くにあたって、授業内で行われる **free writing** と英語教師と行う **dialogue journal writing** がエッセイ・ライティングにどの程度役立つのかという点について実証研究の結果を報告したい。

4. Dreaming of the Feminine in Man: A Reading of Steinbeck's *Of Mice and Men*

Steve Redford（静岡大学）

After a brief survey of relevant criticism, a reading of *Of Mice and Men* is presented focusing on the theme of the “feminine in man.” First, the way in which the male ranch workers—in particular, George—have been traumatized by the economic and social conditions in California in the 1930’s is examined. Then, the way in which Lennie, the idiot-child, serves as a guide—one who can lead the traumatized characters toward a path of healing—is discussed. Next, the feminine presence in the novel is outlined. The center of this presence is, of course, the one female character, Curley’s wife, but key male characters also embody attributes of the feminine. Finally, the tragic rejection of the feminine by the male-dominated world is discussed, and the question of George’s emotional growth throughout the novel—his movement toward recognition of the feminine in himself—is addressed. In the concluding remarks, consideration is given to how this reading of *Of Mice and Men* places it in the American literary canon.

5. 教育的視点から見たグループ「アラバマ」の歌詞

佐野潤一郎（創価大学）

カントリー・グループ「アラバマ」は、多くのファンを持ち、アラバマ州フォートペインには、ファンが創設した資料館「アラバマ・ファン・クラブ・ミュージアム」がある。展示は、社会的問題に取り組む「アラバマ」の姿勢に重点が置かれている。こうした傾向は、「アラバマ」の歌詞に見られる特質とも一致する。本発表では、南部の他の音楽博物館・資料館との比較からカントリー音楽界の全般的位置づけを確認し、「アラバマ・ファン・クラブ・ミュージアム」で対話した解説員や来館者へのインタビューを通して、「アラバマ」が社会教育、学校教育両面で果たしている役割を考察する。また、「アラバマ・ファン・クラブ・ミュージアム」で展示されている歌詞の分析によって資料館が提示しようとしている世界観を検証すると共に、反面鏡像であるアメリカ南部が抱える問題を浮き彫りにする。



文京学院大学軽井沢セミナーハウス（軽井沢駅から南へ3.5km。タクシーで5分）
〒389-0102 長野県北佐久郡軽井沢町大字軽井沢 1019-247

当日会費：一般 500 円 学生 300 円

大会事務局：人間総合科学大学人間科学部 大東 俊一研究室内
〒101-8360 さいたま市岩槻区馬込 1288
TEL：048-749-6111 E-mail：ShunichiDaito(at)SES-online.jp
学会ホームページ：http://www.ses-online.jp/indexj.html

◆大会事務局より (事務局担当理事：大東俊一)

<第26回大会の宿泊申し込みについて>

9月13日(土)・14日(日)、文京学院大学 軽井沢セミナーハウスにて開催されます大会の宿泊等のご希望に関しましては、8月10日までに同封の葉書にてお知らせください。なお、宿泊につきましては、9月13日(土)の1泊のみとさせていただきます。

また、当日の施設利用者の人数との関係で相部屋になる場合がありますので、ご了承願います。

宿泊費 8,600円 (懇親会費、朝食代を含む)

懇親会費 3,000円 (宿泊をしない方)

14日昼食 1,000円

セミナーハウス周辺には宿泊・飲食・商業施設等はほとんどありませんので、ご注意ください。上記の費用に関しましては、当日、会場にて徴収させていただきます。

◆会計報告・予算 (財務担当理事：山根正弘)

6月14日、例会後の臨時総会で、平成19年度収支会計報告と平成20年度予算(案)が承認されました。会計報告・予算を掲載いたします。なお、会計監査は5月21日、山下信一・河村博旨両先生により行なわれました。

平成19年度英米文化学会収支会計報告

平成20年6月14日

財務担当 山根正弘

自 平成19年4月1日

至 平成20年3月31日

単位:円

収入		支出	
摘要	金額	摘要	金額
前年度繰越金	1,748,688	事務局費	173,062
年会費	1,007,000	学術委員会運営費	688,105
学会誌(37号)掲載料	310,000	広報費	85,345
印税	526,875	大会運営費	143,675
雑収入	8,069	例会運営費	202,567
		理事会運営費	42,880
		翻訳プロジェクト費	5,000
		IT担当費	47,987
		出版担当費	20,000
		分科会運営費	72,360
		サーバー賃借料	113,400
		予備費	82,797
		次年度繰越金	1,923,454
合計	3,600,632	合計	3,600,632

上記会計報告について、厳正な監査の結果、適正であると認めます。

平成20年5月21日

会計監査

山下 信一
河村 博旨

平成 20 年度英米文化学会予算

平成 20 年 6 月 14 日
財務担当 山根正弘

自 平成 20 年 4 月 1 日
至 平成 21 年 3 月 31 日

単位:円

収入		支出	
摘要	金額	摘要	金額
前年度繰越金	1,923,454	事務局費	250,000
学会費	1,000,000	学術委員会運営費	700,000
学会誌(38号)掲載料	230,000	広報費	100,000
印税	400,000	大会運営費	250,000
雑収入	20,000	例会運営費	200,000
		理事会運営費	120,000
		翻訳プロジェクト費	100,000
		IT担当費	50,000
		出版担当費	20,000
		分科会運営費	140,000
		出版助成費	1,300,000
		評議員会運営費	80,000
		サーバー賃借料	113,400
		予備費	150,054
合計	3,573,454	合計	3,573,454

年会費の納入は、郵便振替でお願いします。
受領証は領収証に代わるものです。必ず保管して下さい。
納入状況は、山根正弘 MasahiroYamane(at)SES-online.jp に
問合せ下さい。

年会費：5,000円

口座番号：00160-7-611777

加入者名：英米文化学会

◆ 学術担当より紀要『英米文化』第39号論文募集

(学術担当理事：上野和子)

当学会の紀要『英米文化』第39号の原稿締め切りは10月末日です。

投稿原稿は、担当の上野和子(〒154-0017 東京都世田谷区世田谷3-22-21)までお送りください。

紀要『英米文化』投稿規程(平成17年2月2日改訂)

<投稿規程>

1. 本誌は、英米文化学会の機関誌であり、原則として一年に一回発行する。
2. 投稿原稿は、英語文化における文学、文化、語学、英語教育などの論文とし、未発表のものに限る。ただし、学会で口頭発表したものについてはその限りではない。その旨を明記した注を、表紙1頁に入れること
3. 投稿資格 本学会員とし、投稿する当該年度までの会費を完納している者に限る。
4. 応募締め切り 毎年10月末日までに、原稿3部と、記録媒体に入れたファイルならびに略歴(所属学校・機関、研究分野、主要研究テーマ)を学術担当までに送付すること。
5. 原稿掲載の可否 学術委員会による査読を経て決定する。
6. 編集、校正は、編集・学術委員会にて行なう。執筆者校正は二校までとする。初校は一週以内、再校は3日以内に返送すること。期限を過ぎても返送されない場合に、学術委員会は掲載を断る権利を有する。
7. 上記以外の案件については、理事会の判断が優先される。

<執筆要項>

1. 長さ・形式 和文論文は12,000から16,000字数の間にまとめる。A4用紙に38字×25行、フォント12で打ち出す。英文論文も4,000から5,000語数を目安とし、A4用紙に75字×25行とする。
2. 和文論文には、英文表題をつけること。応募論文は、論文の筆者名、所属名(非常勤の場合は(非)、大学院生の場合は(院)と付記)、論文題名、口頭発表に関する注記、謝辞などは表紙にのみ記載し、論文第一ページ以降は題名と本文のみとする。なお、日本名のローマ字標記は原則として姓名の順にする。例 山田太郎 YAMADA Taro
3. 英文・和文の論文は共に、200語程度の英文のAbstractをつける。英文論文については、専門職によるネイティブ・チェックを受けた後に投稿すること。
4. 本文への注釈
 - a) 注は本文の記述順にアラビア数字を附し、後注とする。
 - b) 外国の人名、書名などは、初出の箇所日本語の後にマル括弧付で、綴りを併記する。書式の細部に関しては、『MLA新英語論文の手引き』(北星堂)の最新版に遵うものとする。
5. 提出する原稿には、CD、DVD、フロッピーなどいずれかを添付する。
6. 執筆者負担金は『英米文化』出版後、財務委員会で負担額を算定し、執筆者に通知する。執筆者には、掲載誌5部と抜き刷り50部を進呈する。負担金は一頁につき2500円である。ただし、始めの3頁は無料とする。

以上

◆分科会開催報告

(分科会担当理事：須田理恵)

「植物と英米文学研究分科会」

6月28日6時より佐藤研究室において第二回「植物と英米文学研究分科会」を開催致しました。当日のご発表は佐藤治夫先生による発表、「『鳥と獣と花』考 -- D.H.ロレンスと生命の樹のヒエラルキーにおける果物」でした。

尚、参加者は13名(発表者を含む)でした。

◆事務局より

(事務局担当理事：大東俊一)

<会員消息>

省略

◆編集責任者よりお詫びと訂正

(広報担当理事：佐野潤一郎)

前号の会報で、大会会場に誤記がございました。

○文京学院大学 ← ×文京学園

関係各位にお詫び申し上げると同時に、遅ればせながら訂正させていただきます。

英米文化学会会報 第76号 編集/発行：英米文化学会 編集責任者：佐野潤一郎
〒181-0012 東京都三鷹市上連雀 5-27-23

英米文化学会事務局 〒339-8539 さいたま市岩槻区馬込 1288 人間総合科学大学人間科学部 大東俊一研究室内

Tel:048-749-6111(office), 03-5399-3395(home) E-mail:ShunichiDaito(at)SES-online.jp

年会費等振込先：郵便振替 加入者名 英米文化学会 口座番号 00160-7-611777

学会ホームページ <http://www.SES-online.jp/indexj.html>